プ
ッ
ア
プ
ッ
テ
ス
KUMAMOTO

音楽を通じ、友情と文化の交流を育む。

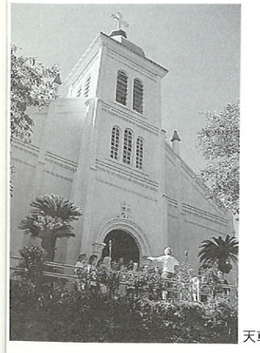
―熊本国際青少年音楽フェスティバル―

第五回熊本国際青少年音楽フェスティバル最終日は、阿蘇の野外ステージ「アスペクタ」で、熊本ユースシンフォニーオーケストラとシカゴ・クラシカルシンフォニーオーケストラの総勢二百人が共演。阿蘇の山々を背に流れる名曲の数々。フィナーレのチャイコフスキー作曲「一八一二年」のアームストロング砲の爆発音のあと、ステージを包み込む様に、数百発の打ち上げ花火とレーザー光線やサーチライトによる光のパフォーマンスが繰り広げられ、観客は全員総立ち。盛大な拍手の中に二十四日間の幕を閉じました。

県庁アフターファイブコンサート

今年で第五回目を迎えた「熊本国際青少年音楽フェスティバル」。熊本ユースシンフォニーオーケストラをはじめ、海外からは「ヒューイングザー・キンダーコール」（西ドイツ）、「マウントカーメル・ハイスクールバンド」（アメリカ合衆国）、「シカゴ・クラシカルシンフォニーオーケストラ」（アメリカ合衆国）が参加。七月二十一日の県庁アフターファイブコンサートを皮切りに、八月十三日、アスペクタでのフィナーレまでの二十四日間、県立劇場を中心に、県内七か所の会場での演奏会や、観光、夏祭りへの参加など多くの友情と文化交流を育みました。

「音楽を通して青少年の国際交流を」


天草町大江天主堂の前で歌う

と始まった熊本国際青少年音楽フェスティバル。「より多くの出会いづくり」を目指して、次の三つを基本的な柱に展開してきました。

一、ホームステイによる県民と海外の若者達との出会い。

二、世界の若者達のステージ上の共演による異文化との出会い。

三、県下各地での公演による県民に身近なものとしての音楽との出会い。

熊本県はいま、「ホームステイカントリー熊本づくり」を推進していますが、来熊した二百五十七人の海外の若い音楽家全員にホームステイをしてもらいました。今回は、一般公募したホストファミリーの中から、荒尾、玉名、山鹿、熊本、大津の五か所をホームステイ先としました。

熊本市川尻町の石坂さん宅にやって来たのは「マウントカーメル・ハイスクールバンド」のロッド・ボーギー君とジェレミー・ポーター君。二人にとって石坂さん宅は、来熊して二番目のホームステイ先だとのこと。

玉名市蓮華院奥之院の釣鐘つきに挑戦

「会ってすぐはお互いぎこちないけど、近づいてきてくれるのは、いつもホストファミリーの人たち。みんな親切で、とてもよくしてくれる。」「何もかもが新しい体験。こっちに来て、身ぶり手ぶりを入れて、単語で話すことが多くなったよ。」

と笑った二人。ロッド君はピアノで「スティング」を弾いてくれました。ホームステイは、若い彼らにいろんな「本当の日本」を発見させ、言葉を越えた交流を体験させたことでしょう。

今回は、公演回数十七回、海外からの参加者数二百五十七人、延べ入場者数一万六千三百五十人。回を重ねる度に、その規模も大きくなってきました。また、同フェスティバルで共演したり、ホストファミリーとなったのが縁で、海外から招待される例も出て〝新たな交流〟も行われるようになりました。

来年に向けてもう既に準備が始まった、この「熊本国際青少年音楽フェスティバル」。世界中の若い音楽家達が熊本で集うのも、そう遠い日ではなさそうです。

有明町竹島でキャンプを楽しむ

長洲町金魚養殖場で

ホームステイ中のロッド君とジェレミー君

ハッピ姿で火の国まつり総踊りに参加